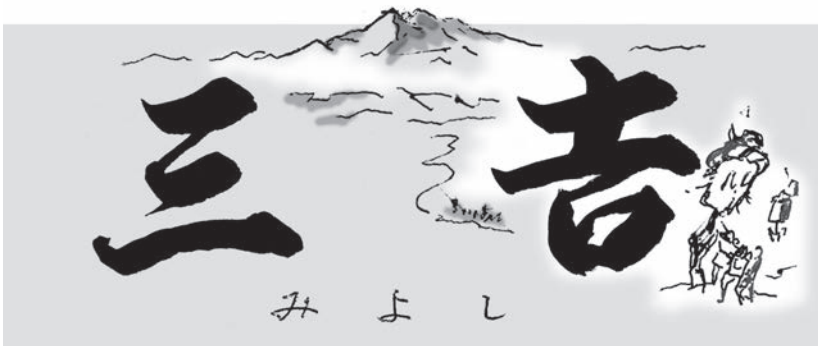




発行所

太平山頂上鎮座

太平山三吉神社総本宮

宮司 田村 泰教

秋田市広面字赤沼3の2

電話 (018) 834-3443

FAX (018) 835-6864

<http://www.miyoshi.or.jp>

1月17日 三吉梵天祭：村梵天の勇壮な先陣争い

戦後最悪の火山災害となった九月の御嶽山
水蒸気爆発。同じ山岳信仰の道に仕える者に
とっては決して他人事でなく、犠牲になられ
た方々のご冥福を心より祈るばかりだ。▽木
曾節でも知られる霊山は、役小角が開山し、
古くから富士山と並び称される信仰の山。近
年はロープウェイも開通し、三時間ほどで標
高三〇六七m（日本第十四番目）の頂に達し、
山頂からの景色などを比較的容易に満喫でき
ることもあって、一般登山者の人気も高かつ
た。▽絶好の登山日和の週末、しかも頂上付
近が最も賑わうお昼時。もとより自然の織り
成す現象は人間の都合などお構いなしとはい
え、余りにも噴火のタイミングが悪すぎた。
▽近年、若い女性を始め山に親しむ方々が増
えている。自然の雄大さや尊さを五感に感じ
ながら、汗をかき自分の足で頂点に立つ達成
感や清涼感は格別だ。▽しかしまた、自然の
大きな力の前で私たち人間に為す術はな
く、時にその猛威が甚大な傷跡を残すことも事
実。人智の及ばぬ大自然への畏敬の念を忘れ
てはならない。

宮田村 泰教

年末年始行事日程表

十二月 十三日（土）	午前十時	煤払い式
十二月三十一日（水）	午後二時	師走大祓式
一月 一日（木）	午前零時	歳旦祭
一月 十七日（土）	午前六時	梵天祭
一月二十五日（日）	午前十時	どんと祭

シリーズ三吉⑫

帯廣三吉神社

責任役員 原 田 幸 雄



全国の三殿の掃除や境内の草刈奉仕を始め、年末には社殿の煤払い、注崇敬の皆様連縄作りなど、新年を迎える準に於かれま備も含めて、帯廣三吉神社の管理は秋田県人会有志による奉賛としては、ご理は秋田県人会有志による奉賛は神社の境内に櫓が立つて盆踊

さて、帯廣三吉神社は帯広市の総鎮守であります。帯廣神社の兼務社として古くから地域の人々の信仰を集め、平成十八年には御鎮座百年を迎えた、地元では由緒ある神社の一つです。

私自身も、秋田県山本郡浅内村（現在は能代市）出身で、当地の帯廣秋田県人会に籍を置いてから早くも四十二年が経ちましたが、かつては帯廣三吉神社の社務所に秋田県人会の事務所が置かれておりました。

その当時は、年間通して神社の祭礼毎に会合がもたれて、社



元旦

又、この度の修復工事では新たに電灯設備が増設され、夕暮れ時の参道に明かりを灯す石燈籠へと生まれ変わりました。

近隣の保育所の可愛らしい園児たちが賑やかに境内を駆け回り、学校の写生会では画板を手にした小学生が、思い思いの場所に腰を下ろして神社を描き、春には花見、秋には観楓会と、町内会との交流の場にもなっている神社の森を、末永く守っていきたいと思います。

結びにあたり、大平山三吉神社の益々のご繁栄と関係皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

この十勝帯広開拓の時代から、その時代、その時代の人々の手によって守られてきた帯廣三吉神社の境内には「秋田県人会有志」と刻まれた石燈籠があります。

しかし、昭和九年に奉納された一対の石燈籠は、既に八十年に及ぶ風雪によって傷みが進み、今後の保持が懸念される状態になっておりましたが、このことを憂いた現在の帯廣秋田県人会の三橋利雄会長を始め県人会役員が発起人となって有志を募り、石燈籠修復の為の募財活動が実現しました。



写生会

言挙げ ⑤2

新ブランド「秋田牛」

あきたぎゅう

権称宜 鈴木 一美



「秋田にも牛がいるのかと言われる」

と、県の佐竹知事は今秋、畜産農

家が「土用の丑の日」の鰻に對抗して贈った県産牛肉を前に知名度の低さを嘆いたそうだった。

現在、県内の銘柄牛は「三梨牛」「羽後牛」「秋田由利牛」など、二十五種類もあるそうだが、知名度という点に置いては、ほぼゼロという銘柄も少なくなく、大半が小規模経営なのだそうだった。

平成二十四年の農林水産省統計によると、県産肉牛のシェアは〇・八%、四十七都道府県中三十位に甘んじている。一%未満という事は「牛がいない」とと揶揄されても仕方がない。

県はこの様な状況を打破すべく、県内肥育牛の統一ブランド「秋田牛」の認知度を高めると共に生産を拡大し、販売の促進などを進める「秋田牛ブランド推進協議会」を十月六日に発足し、会長には知事が就任。席上「秋田の料理で漸くメインディッシュが誕生した」と述べた。

同日の記念講演では東京食肉市場の大塚常務様は

「頭数が少ないのが心配。数が無ければ有名ブランドにならない。一頭でも十頭でも増やしていけば名声は上がる」と激励したそうだった。

日本の和牛に代表される「松阪牛」「神戸ビーフ」「近江牛」「但馬牛」「前沢牛」など名立たるブランド牛は全て黒毛和種。これらに伍するべく、他の産地との差別化を図っていく狙いだ。

特徴として、秋田県産黒毛和種であること。米粉を九キロ以上使用するなど、一定量の米を出荷前六カ月以上与えること。肉質が三等級以上であることなどを条件としている。

これは、ブランド米「あきたこまち」に代表される米どころ秋田のイメージを最大限に活用したいという思いがある。

一方、主食である米の消費量は急速に減少しており、国民一人当たりの年間消費量は六十キロを割り込み、この五十年間で半分程度にまで落ち込んでいる。更に今年は豊作なこともあり、米余りに拍車がかかっている。この主食の米を飼料用米へ転用

したいとの思惑もある。

米を与えた牛肉は、旨味成分のオイレン酸が増えると言う研究結果が得られている。通常肉に比べて肉質が柔らかく旨味が強い。更には脂の口溶けが良好との事で申し分ないとの結果だそうだった。

今を遡ること二年前の平成二十四年十月、長崎県で開催された「第十回全国和牛能力共進会」において、秋田県が所有する種雄牛「義平福」を父とする県産牛が本県としては過去最高の第二位の栄誉に輝いた。これは県内のみならず、全国の生産者や流通関係者からも大きな注目を集めた。

これは五年に一度開かれる日本最大の和牛品評会で「和牛のオリンピック」とも呼ばれており、五輪で言う銀メダル級の高い評価を得たことになる。

当時、県の担当者を始め関係者の力の入れ様は相当なもので、受賞の知らせに、手を叩き歓喜の声を上げたに違いない。

これを千載一瞬の好機と捉え、「義平福」を本県肉用牛の広告塔と位置づけ、畜産業の将来を担うスーパー種雄牛として積極的に活用したいという思いがあった。

牛肉は、アルファベットのA、C、数字の5、1の段階分けで格付けされており、最高格付けが「A5」となっている。「義平福」の子牛の多くは「A5」「A4」に格付けされ、その割合は驚きの九四・一%と抜群とのこと。

因みに、この大会の第一位は宮崎県で大会史上初めての連覇だった。同県は平成二十二年に発生した口蹄疫により、同県有種雄牛五十頭を含む約七万頭も牛が殺処分されたことは記憶に新しい。劣悪な環境の下での日本一は敬服に値する。

今年の十一月、秋田市内の農業高校二年生三十三名の生徒が県内の三市場が平成二十四年十月統合して出来た「あきた総合家畜市場」を訪れ、子牛の競りの様子を見学した。全国からも多数の肥育農家が来場し、県内で育った黒毛和種の子、三百四十二頭の取引が成立。義平福の子は百二十六頭成立。売上高は二億円を超えた。普段は見慣れない流通現場を目の当たりにして大いに勉強になったことだろう。平均価格が過去最高の六十万八千六百十八円を記録したとのこと。高値がつけばやる気も起こる。

次世代を担う彼らには大いに期待をしたいし、せざるを得ない。秋田名物「いなにわうどん」きりたんぽ」を食べようと、県外からも多くの人がやってくる。

やがて「秋田牛を食べに来ました」と言う人々が大挙して訪れ、人口減少に悩む秋田県にとって良い波及効果となつてほしいものである。



厄年・年祝いのご案内

厄年のお祓いや還暦・古稀などの年祝いを迎えられた方々の無病息災・除災招福のご祈願祭を随時行っております。(団体様やホテル等での出張祈願をご希望の方はお気軽にお問合せ下さい。)

平成 27 年 (乙未) 厄年・年祝い一覧

生まれた年	え と	男 性	女 性	年齢(かぞえ)
大正 6 年生	巳 (へび)	白 寿 (はくじゅ)		99歳
大正15年・昭和元年生	寅 (とら)	卒 寿 (そつじゅ)		90歳
昭和 3 年生	辰 (たつ)	米 寿 (べいじゅ)		88歳
昭和 11 年生	子 (ねずみ)	傘 寿 (さんじゅ)		80歳
昭和 14 年生	卯 (うさぎ)	喜 寿 (きじゅ)		77歳
昭和 21 年生	戌 (いぬ)	古 稀 (こ き)		70歳
昭和 29 年生	午 (うま)	後 厄		62歳
昭和 30 年生	未 (ひつじ)	還 暦 (かんれき 大厄)		61歳
昭和 31 年生	申 (さる)	前 厄		60歳
昭和 48 年生	丑 (うし)	後 厄		43歳
昭和 49 年生	寅 (とら)	大 厄	厄	42歳
昭和 50 年生	卯 (うさぎ)	前 厄		41歳
昭和 53 年生	午 (うま)		後 厄	38歳
昭和 54 年生	未 (ひつじ)	厄	大 厄	37歳
昭和 55 年生	申 (さる)		前 厄	36歳
昭和 57 年生	戌 (いぬ)		後 厄	34歳
昭和 58 年生	亥 (いのしし)	厄	大 厄	33歳
昭和 59 年生	子 (ねずみ)		前 厄	32歳
平成 2 年生	午 (うま)	後 厄		26歳
平成 3 年生	未 (ひつじ)	大 厄	厄	25歳
平成 4 年生	申 (さる)	前 厄		24歳
平成 7 年生	亥 (いのしし)	成 人		満20歳
平成 8 年生	子 (ねずみ)		後 厄	20歳
平成 9 年生	丑 (うし)	厄	大 厄	19歳
平成 10 年生	寅 (とら)		前 厄	18歳
平成 15 年生	未 (ひつじ)	十三参り		13歳

※年齢は数え年ですので、誕生日にかかわらず
新年を迎えると一つ年をとります。



どんど祭

1月25日
(日)

午前10時～午後3時

お正月の松飾りや縁起物、また古くなったお札・お守りをお焚き上げいたします。当日ご都合の悪い方は、予め神社所定の位置にお納め下さい。

～書籍やぬいぐるみ・置物など神社にご縁のない物や不燃物はお預かりできません。

○人形類は 10 月の人形感謝祭にお持ち下さい。

○環境への配慮からビニール袋等は外してお納め下さい。

みよしスケッチ



当日祭



清興直会

秋季例大祭（十月十六日・十七日）
 多数の参列のもと、厳肅裡に肅行されました。



三吉節全国大会（九月十七日）



閉山祭（九月十七日）
 御神体を奥宮より里宮に遷御いたしました。



印章供養祭（十月一日）
 古い印鑑や表札を供養し、塚に納めました。



人形感謝祭（十月一日）
 愛着ある人形に感謝し、お焚き上げ神事を行いました。



七五三詣
 十二月までお祝いのお子さまのお参りがございます。

三吉節保存会 進藤義声会長 秋田県文化功労者受賞



当神社の梵
天唄である三
吉節の保存会
会長を永年に
わたりお努め

頂いております進藤義声様が、この度本県の文化発展に卓越した功績を残された方に贈られる『秋田県文化功労者』に選ばれ、十月三十一日県正庁において表彰を受けられました。

進藤会長は昭和五十八年に三吉節保存会を結成、県民謡協会理事長等を歴任し、歌い手の育成と秋田民謡の発展に尽力され、多大な

ご貢献を果たされております。

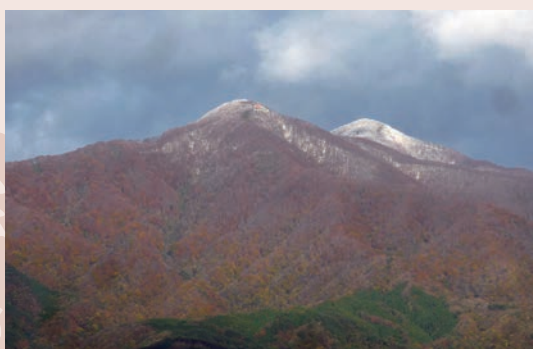
益々のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。



太平山頂上

参籠所完全閉鎖

十月初旬に奥宮と参籠所（山小屋）の一部を閉鎖した太平山頂上は、十月二十八日に初冠雪を迎えました。本格的な冬を前に、十一月十一日には山頂の山小屋も完全に閉鎖。明年五月まで山頂は雪に閉ざされた世界となります。



今年の初冠雪

大麻・暦頒布始祭

千一月十七日
明年の神宮大麻、暦の頒布始祭を行いました。



梵天打合せ会

千二月二十一日
明年の三吉梵天祭の打合せを行いました。



歩こう会

千一月二十五日
赤れんが郷土館等をまわり、約十キロを歩きました。



自衛警備隊総会

千一月十三日
梵天祭の準備・警備等について話し合いを行いました。



平成 27 年 上半期主な祭典・行事予定

1月1日(木)	午前零時	歳旦祭	国家の安泰と皆様のご安寧をお祈りいたします
1月17日(土)	神事 午前6時	梵天祭	力の神である《三吉霊神》にあやかろうと威勢良く先陣を争い梵天を奉納する秋田の冬の伝統行事(8頁参照)
	奉納 午前10時~正午		
1月25日(日)	午前10時	どんと祭	古くなったお札、お守、縁起物をお焚上げいたします(4頁参照)
2月3日(火)	午前10時	節分祭	福豆をまき供え、除災招福を祈ります
2月11日(水)	午前9時	紀元祭	神武天皇建国の偉業を偲び、日本の繁栄と世界平和を祈念いたします
5月7日(木)	午後6時	春季例大祭宵宮祭	五穀豊穡や家内安全、各種産業の発展を祈る春の例大祭
5月8日(金)	午前11時	春季例大祭当日祭	
6月初旬		太平山山小屋開所	10月初旬までの4ヶ月間、山頂に神職・関係者が常駐いたします
6月30日(火)	午後3時	夏越の大祓	上半期の節目に当たり、自分の罪けがれを祓い清めます

師走の大祓式

この一年の間、知らず知らずの内に自分の身に積もった罪けがれを、形代(かたしろ)に託して祓い清め、心身ともに清々しく新年を迎えるための節目の神事でございます。

ご多忙の折とは存じますが、是非ご参列下さいますようご案内申し上げます。

記

一、日時 平成二十六年十二月三十一日(水)

午後二時

一、於 神社拝殿

○ご都合のつかない方は、形代でご自身の身を祓い清め、随時ご持参又はご郵送下されば三十一日当日神事ご奉仕の上、御神符をお送りいたします。

○当日ご参列の方は、参列できないご家族の方の形代をご持参下さい。

※形代(かたしろ)は神社にございますので、必要な数をご連絡下さい。



秋田市赤沼

人に押し負け大きらい

厳寒の二月、雪国の静寂を打ち破って
藤田剛治「秋田の行事」にも描かれた

秋田の冬の風物詩「ぼんでん」が行われる。

力の神・勝負の神を祀る太平山三吉神社の

例祭に奉納される梵天は八十本余り。

意匠をこらした梵天は、数十人の男たちを従え、

雪の町を練った後、神社に集結する。

「人に押し負け大きらい」と三吉郎も高らかに、

法螺貝と「ジョヤサ」の掛け声が

勇ましく轟くなか、万を越す観衆の前へ。

十余りの梵天が踊り乱れ、

男たちは波となつて激しくもみ合う。

一年の幸を願う熱い祭は、今年も一足早い春を呼ぶ。

梵天祭

ぼんでん

平成27年

1月17日(土曜)

◎神事:午前6時～

◎奉納時間:午前10時～正午



太平山三吉神社総本宮

秋田県秋田市赤沼3-2 ☎018-834-3443 <http://www.miyoshi.or.jp>

平成27年度 梵天祭ポスター